



2026年6月1日

各 位

会社名 京福電気鉄道株式会社
代表者名 代表取締役社長 大塚 憲 郎
(コード番号 9049 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役管理部長 藤 木 齊
(TEL 075-841-9385)

「京福グループ中期経営計画 2028」(2026年度～2028年度)の策定について

当社では、「京福グループ中期経営計画 2028」(2026年度～2028年度)について本日決定いたしましたので、お知らせいたします。

京福グループは2023年に「京福グループ中期経営計画 2025」(2023年度～2025年度)を策定いたしました。コロナ後の回復が本格化し、インバウンドが増加するとともに経済活動が正常化・活発化し、物価の上昇とともに長年のゼロ金利政策が終焉を迎えるという日本経済の大きな転換期となった期間において、京福グループは各施策を着実に進め、目標とした営業利益および当期純利益の確保を達成いたしました。

私たちを取り巻く事業環境は、人口減少・少子高齢化、技術革新によるライフスタイルや価値観の変化、自然災害の激甚化、世界的な地政学リスクの常態化等、変化と不確実性がますます高まっています。このような中であって、京福グループはこれからも事業の根幹である運輸・交通事業における安全の維持・確保に努めてまいります。また、沿線地域の皆さまとの連携を通じて沿線の魅力を深耕・発信して地域のにぎわいづくりに貢献するとともに、一定規模の不動産投資を継続的に行って良質な不動産賃貸事業を展開することにより、よりよいまちと暮らしを創造してまいります。他方でリスクを最小化し、持続的な成長を遂げていくためには、既存の事業基盤を一層強化することが不可欠であり、設備の更新投資を行うことにより足固めを進めます。さらに、多様な人材がいきいきと活躍できる企業風土の醸成や、温室効果ガス排出量の削減などによる環境に配慮した経営も積極的に推進してまいります。

京福グループは引き続き地域に根差した事業を着実に展開し、これからも安定して株主さま、お客さま、地域の皆さまから支持していただける企業集団として成長していくことを目指してまいります。

1. これまでの計画および成果（振り返り）

（1）2023年5月策定「京福グループ中期経営計画2025」（2023年度～2025年度）

- ・基本方針 3年にわたったコロナ禍への緊急事態対応から転換し、新たな事業環境に適応してビジネスチャンスを実実に生かすことで成長を図るとともに、適切な投資を行い、安定的に経営を持続していく。
- ・定量目標 期間中（2023年度～2025年度）に各施策を進めることで営業利益を実実に積み上げ、2030年度において営業利益20億円を達成するとともに、各年度安定的に10億円以上の当期純利益確保を目指す。

（2）主な取り組み実績

①安全・安心の実現

鉄軌道事業

（嵐山線）

- ・新型車両モボ1形「KYOTRAM」3両導入（1両目2025年2月、2・3両目2026年3月営業運転開始）
- ・全22駅中20駅のバリアフリー対応完了（2024年11月）
- ・四条交差部の踏切遮断機の設置（2024年3月）
- ・電柱コンクリート化、踏切設備更新、軌道道床交換など、保安度向上・老朽施設更新工事の計画的推進

（鋼索線・架空索道（叡山ケーブル・ロープウェイ））

- ・鋼索線索条更新（2026年3月）
- ・冬期運休期間を活用した保安度向上・老朽設備更新工事の計画的推進

バス運送事業・タクシー事業

- ・バス・タクシー車両更新工事の計画的推進

②旅客サービスの向上、まちづくりへの貢献と収益力の強化

鉄軌道事業

- ・鋼索線開業100周年（2025年12月）、嵐電北野線全線開通100周年（2026年3月）を契機とする積極的情報発信や関連イベント開催など利用促進施策の実施
- ・旅客輸送の安定的提供のため運賃改定実施（嵐山線：2023年4月、鋼索線・架空索道：2025年4月）

（嵐山線）

- ・コロナ後の需要回復に合わせダイヤ改正実施。輸送力を約10%増強（2023年8月）
- ・「映画のまち太秦」をテーマとする情報発信や、北野線沿線の社寺をめぐるツアー開催など、沿線の魅力を深耕・発信し利用促進と観光分散化を図る事業の創出と実施
- ・沿線社寺、江ノ島電鉄や高雄メトロなど運輸事業者、地元放送局や様々な企業・団体などとの広範な連携による共同事業や相互PRの実施

バス運送事業・タクシー事業

- ・京都バス㈱：京都市大原地区、京都府南山城地区などの関係先と連携し、地域活性化と魅力発信を図るプレミアムバスツアーの実施（随時）
- ・京福バス㈱：高速バス京都・大阪線の大阪・関西万博会場までの延伸運行（2025年4月～10月）

- ・京福バス(株)：スマートフォンやパソコンから定期券を購入・更新できる「iCONPASS」導入による沿線旅客向けサービス向上策の実施（2025年10月）
 - ・ケイカン交通(株)：地域住民の移動を支えるオンデマンド型乗合タクシー「イータク」（2023年1月）、自動運転実証事業「イータクプラス」（2025年10月）への参画
- 北陸新幹線金沢・敦賀間延伸開業に合わせた施策
- ・京福バス(株)：新幹線停車駅と主要観光地を結ぶ観光二次交通「はぴバス」（2024年3月～）、「新感覚 XR バス WOW RIDE®いこっさ！福井号」（2024年6月～）の運行
 - ・シームレスで利用利便性の高い交通系 IC カードシステム「ICOCA」（2024年2月）、タクシーアプリ「GO」とキャッシュレス精算端末の導入（2024年3月）
 - ・越前松島水族館：ミズダコに特化した国内唯一の施設「みずだこ館」オープン（2024年3月）

まちづくりと不動産業の収益力強化

- ・京福電気鉄道(株)：ランフォート円町（2024年3月取得）、ワコーレヴィータ高槻八丁畷町（2024年7月取得）、京福茨木ビル（2025年3月取得）、セットレジデンス（2025年4月売却）
- ・京福不動産(株)：K フォート東森田（2023年12月取得）、Uni E' terna 福井乾徳（2025年10月取得）

③経営基盤の強化とサステナビリティ

構造改革と経営基盤強化

- ・(株)京福コミュニティサービス：京福商事(株)を吸収合併、社名を京福不動産(株)と変更（2023年4月）
- ・「三国観光ホテル」をブリーズベイホテル(株)へ事業譲渡（2023年6月）
- ・福井県坂井市・あわら市域での営業力強化と効率的運用を図るため、京福バス(株)芦原車庫とケイカン交通(株)本社を統合した新社屋設置（2023年10月）

SDGs

- ・嵐山線車両の更新：回生ブレーキ化改造工事が竣工したモボ 2001 形車両 2 両の営業運転開始（2023年7月）、回生電力貯蔵装置新設（2024年2月）
- ・EV バスの導入：京都バス(株)「e-アラシヤマ号」「オオムラサキ号」（2023年12月）、「嵐電沿線緑化・フジバカマプロジェクト」の実施などの環境活動
- ・能登半島地震で被災したのとじま臨海公園水族館の復旧復興への支援として、イルカやウミガメなどを一時保護（2024年2月）

(3) 連結決算の概要

	(参考) 2022 年度	前 中期経営計画期間		
		2023 年度	2024 年度	2025 年度
営業収益	133 億円	140 億円	144 億円	148 億円
営業利益	12 億円	19 億円	23 億円	24 億円
親会社株主に帰属 する当期純利益	12 億円	20 億円	17 億円	18 億円

2. 「京福グループ中期経営計画 2028」(2026 年度～2028 年度)

(1) 基本方針

京福グループは、安全・安心をブランドの礎として地域に根差した事業を展開し、地域になくはない企業グループへの成長を目指します。変化と不確実性が増す事業環境のなかで将来を見据えて適切な投資を行い、経営基盤を強化することにより事業リスクの最小化に努め、安定的に経営を持続していくことを目指します。

(2) 基本戦略

- ・安全・安心に関する取り組みを着実に継続し、地域インフラ・観光二次交通としての輸送の価値をお客さまに提供します。
- ・沿線地域の皆さまとの連携を通じて沿線の魅力を深耕・発信することにより地域のにぎわいづくりに貢献します。
- ・一定規模の不動産投資を継続的に行って良質な不動産賃貸事業を展開することにより、よりよいまちとくらしの創造に貢献していきます。
- ・ソフト・ハード両面で環境負荷の低減を目指すとともに、自然災害等のリスクにそなえることにより、持続可能で強固な組織体を目指します。

(3) 各事業における主要施策

①運輸業

- ・運輸安全マネジメントの確実な実践による安全・安心な輸送サービスの提供
- ・老朽設備の更新など次代に向けた基盤強化を図る設備投資
- ・安全性・快適性・デザイン・環境性能の高い車両モボ 1 形 KYOTRAM の継続導入
- ・需要に応じたダイヤ・バス路線経路の見直し継続、乗継利便性の向上
- ・ユニバーサルデザインタクシーの継続導入
- ・観光資源の深耕と情報発信による誘客策の企画・実施
- ・観光需要の最大化と分散化（京都地区）
- ・デマンド交通、自動運転実証実験など行政との連携を活かした次代に向けた地域の総合的交通インフラ提供（福井地区）

②不動産業

- ・利便性の高い収益物件を取得することにより、地域に根差し地域のにぎわいづくりに貢献する不動産事業を展開
- ・老朽物件の更新など次代に向けた基盤強化
- ・地域・関係先と連携した駅ビル事業のさらなる活性化（嵐山駅ビル、帷子ノ辻駅ビル）

③レジャー・サービス業

- ・観光資源の深耕と情報発信による誘客策の企画・実施
- ・老朽設備の更新など次代に向けた基盤強化を図る設備投資
- ・自然・環境とふれあう新展示施設の開設（越前松島水族館）

④環境・サステナビリティ経営の推進

- ・GHG排出量の削減、カーボンニュートラルへの貢献
- ・KES (Kyoto Environmental Management System Standard・環境マネジメントシステム) 認証に基づく環境活動の継続
- ・多様な人材が能力を伸長・発揮することにより個人と組織がともに成長する企業風土の醸成
- ・京福電気鉄道(株)新本社事務所建設など、働く環境を整備し、職員のエンゲージメントと業務効率の向上を両立する施策の継続実施

(4) 定量目標

期間中(2026年度~2028年度)に収益力の向上と適切な投資による足固めを並行して進め、2030年度において営業利益28億円を達成するとともに、各年度安定的に18億円以上の当期純利益確保を目指します。

	2026年度	2027年度	2028年度
営業収益	149億円	155億円	160億円
営業利益	20億円	23億円	26億円
親会社株主に帰属する当期純利益	18億円	18億円	20億円

以上